

# 小島地区ふれあいセンターだより



令和4年11月 第389号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



11月の行事予定 ※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
1日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
2日(水)	生涯元気事業(すこやか教室)	午前10時～12時
4日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
8日(火)	小島中学校区青少年育成協議会	
9日(水)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
11日(金)	愛宕3丁目自治会給食会	
16日(水)	生涯元気事業(すこやか教室)	午前10時～12時
	被爆者定期健康診断	午後1時30分～3時30分
17日(木)	被爆者定期健康診断	午後1時30分～3時30分
25日(金)	小島地区連合自治会連絡会議	
26日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～

※上記の行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、日程を変更(中止又は延期)する場合があります。

## 【お知らせ】

### 「秋の歴史探訪」(主催講座)開催の御案内

日時 12月3日(土) 午後1時30分に集合～3時30分頃に解散予定

集合場所 丸山公園(寄合町)

解散場所 丸山公園

内容 小島郷界隈の歴史探訪(青龍山大徳寺跡、小島養生所跡などの散策)

※雨天の場合は、小島地区ふれあいセンターで、歴史講話をいたします。

講師 山口広助さん(長崎游学の会代表、長崎のテレビ番組に多数出演)

受講料 無料

定員 25名(先着順)

申込先 小島地区ふれあいセンター(電話826-7703)

申込方法 直接来所、又は、電話によるお申込み

(午前10時～午後4時30分、月曜日を除く)

申込日 11月1日(火)～12月1日(木)

お願い 受講時は、マスクの着用をお願いします。

当日、37.5度以上の発熱がある方は、受講をご遠慮ください。

皆様のご参加をお待ちしています!!



## 「被爆者定期健康診断」のお知らせ

原子爆弾被爆者対策協議会は、被爆者皆様の健康管理のため、長崎市内の各地区を巡回して、被爆者定期健康診断を実施しております。

今回は、下記の日程で実施しますので、受診されますようお願いいたします。

日時 11月16日(水)～17日(木)の2日間

午後1時30分～3時30分

会場 小島地区ふれあいセンター

第1研修室(2階)

持参するもの 被爆者健康手帳

第1種健康診断受診者証

案内ハガキ

問合せ先 (公財)長崎原子爆弾被爆者対策協議会

(原爆健康管理センター)

もりまちハートセンター内

長崎市茂里町2-1-41(電話 844-3100)

## 崎陽歳時記(45) 竹方其

愛された豚食(三) その③

弘化元年(一八四四)の『御用留』には、オランダ船の食料として浦上豚十五匹、薩摩豚五匹が購入されている。

又、飼料も買われているので、航海中、船中で飼い、必要に応じて屠殺し食料とした。

当時の豚の価格であるが、この年のオランダ船の取引は、浦上豚十五匹で、代銀が九二八匁四分であり、現在の価格で換算してみると、一匹が十二万円となる。

現在の豚の価格は、一匹三万円～四万五千円で取引されているので、比較すると三～四倍の価格となる。二十四匹であるので二百万円、それに飼料代二十匁五分とあるので、四万一千円かかった。食料確保のため、やむを得ない出費であったろう。さて、薩摩豚であるが、長崎には九州各藩の蔵屋敷が十四あり、そこに長崎関役という役人が駐屯していた。

これは、異国船来航などの緊急時の情報収集や、平時での長崎奉行と国元との連絡などをつとめた。出島のオランダ船と唐船

薩摩藩の蔵屋敷は、西浜町にあり、

その屋敷内にて豚を飼っていたが、需要に應えるため、小島村(現在の白糸)に隠れ屋敷を持ち、豚を飼っていた。これは、オランダ船のみならず、唐船においても同じことである。唐船の往来は多かったため、相当な豚の需要があった。



出島のオランダ船と唐船

南山手界限 ②

○尾曲がり猫  
・若干広くなっている広場へ。ここには、年中、猫がたむろして  
います。長崎の猫は、尻尾が短く、尾が曲がっているのが特徴と  
言われます。

・猫が、なぜ多いの？ 江戸時代の貿易船は、鼠対策で、猫を船  
に乗せるのが義務付けられていました。乗せて来たのに船が帰る  
時は、猫を置いていく船主が多く、結果として長崎の街に猫が増  
えていったようです。

○南山手レストハウス

・垂直エレベーターが正面にあります。グラバー園の第2ゲート  
へ行く道です。今回は、祈念坂へ向いますから、後からグラバー  
園は案内します。洋風の建物が右手に見えます。元治元年(1864)の  
慶応元年(1865)頃の建築物です。建物としての特徴は、テラスに石  
柱と木柱を併用する独自の特徴を持ち、大変価値が高い建物です。  
当初はトーマス・B・グラバーの弟が居住していました。

※ジョン・M・ストダート(高島炭鉱の監督官)、明治11年(1878)  
24歳で来崎。

・収入は、学校教師の月給が15円の時、ストダートは600円の高  
給取りでした。

・明治23年(1890)にスコットランドに帰り、めでたく結婚、明治  
24(1891)25年(1892)の2年間は、ここに二人で暮らしました。

翌年の正月に上海に行った折、流行性感冒に罹り船で長崎に帰港。  
肺炎を併発していた為、翌日の昼、妻の腕の中で息を引き取りま  
した。36歳、長崎国際墓地に眠っています。

○大浦展望公園

・南山手レストハウスの庭側に小さな公園があります。見晴らし  
が良く、長崎らしい風景が広がる景色は、ロケ隊に人気の撮影ス  
ポットになっています。映画「ペコロスの母に会いに行く」のポ  
スタービジュアルになったり、映画「アオハライド」の回想シー  
ンで使われたり、意外に知られていない穴場スポットです。  
次は、南山手界限 ③

崎陽歳時記(45) 竹方其

愛された豚食(三) その②

また、文化九年(一八一二)佐土原藩の山伏泉光院が全国行  
脚の中、長崎に一三日逗留したが、彼の日記の中に「家に豚  
を飼っておき、必要な時に食べる」とあり、長崎においては、  
豚を食することは、日常のことであったようだ。

その調理法は、日本独自の調理法に、中国式の調理法を取り  
入れて、多種の調理法が生れたであろう。

泉光院は、長崎を去る一作作日(四月十九日)唐人流(中国  
式)のしつぽく料理を馳走されているが、当然、豚が出たであ  
ろう。

文天保十四年(一八四三)長崎奉行所の『御用留』には、オ  
ランダ人食用の豚や山羊が浦上村辺で飼われていること、また  
百姓の身分でありながら、それを捌いて売り込み、農業を嫌う  
ようになっていくことなどが記されている。

百姓は、五穀「米・麦・粟・黍・稗」を栽培することが求め  
られていたが、長崎では肉の需要が多かったため、それを売り  
商売にする百姓、つまり、豚を専門に飼育する者がでてきた。  
これは、養豚業の始まりを意味している。

- 豚の顔二つ吊るして冬の市 中田朗子
- 豚肉のうず高くある初市場 オレンジナ
- 骨と肉離されし豚雪が降る 高野ムツヲ
- 新藁の香に鼻埋めて軒豚 笹川吟水



〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	筆のみが知る	近藤 史恵	KADOKAWA
	セカンドチャンス	篠田 節子	講談社
	道	白石 一文	小学館
	背負い富士	山本 一力	文藝春秋
	研ぎ師太吉	山本 一力	新潮社
	ジョン・マン 1	山本 一力	講談社
	ジョン・マン 2	山本 一力	講談社
	ジョン・マン 3	山本 一力	講談社
	ジョン・マン 4	山本 一力	講談社
	千両かんばん	山本 一力	新潮社
	さよなら溪谷	吉田 修一	新潮社
	母さん、ごめん。2	松浦 普也	日経 BP
	峠 上巻	司馬 遼太郎	新潮社
	峠 中巻	司馬 遼太郎	新潮社
	峠 下巻	司馬 遼太郎	新潮社
	大江戸 24 時間	—	中央公論新社
	長崎橋物語	岡林 隆敏	弦書房
	なぜ、あの人はよく眠れるのか	小林 弘幸	主婦と生活社
	楽しみ上手は老い上手	岸本 葉子	中央公論新社
	きらめきを落としても	鯨井 あめ	講談社
児 童 図 書	真田昌幸	加来 耕三	ポプラ社
	さかなのかお	なかの ひろみ	アリス館
	アンデルセン童話集	ハンス・クリスチャン・アンデルセン	世界文化ブックス
	海のがみのゆうびんや	ミシエル・クエヴァス	化学同人
	おりがみできたよ!	朝日 勇	つちや書店
	おふろ	新井 洋行	偕成社
	リゼッテうそをつきにいく	カタリーナ・ヴァルクス	クレヨンハウス
	へんしんオバケ	あきやま ただし	金の星社
	はるのワンピースをつくり	石井 睦美	ブロンズ新社
	へんしんとびばこ	あきやま ただし	金の星社